



次号の巻頭文は、芹田代表理事の予定です!

お楽しみに!

お品書き

【その巻】CODEレターVOL.11

【その式】プロジェクトNEWS

【その参】ぶどう新聞

以上



## 「海外支援、民主化、協働」

**理事 野崎 隆一**  
(神戸まちづくり研究所事務局長)

私の海外への関心は、昔定期購読していた雑誌「世界」に連載されていた藤村信氏の「連帯～ポーランドの夏」を出発点にしているように思います。藤村氏の抑制の利いた、それでいて正確な現地報告を毎月自分が当事者であるように胸躍らせて読んだことを今でも覚えています。震災後、亡き草地賢一さんの「大きな自然災害は、被災者に避けがたく民主化を迫る（表現は正確ではありませんが）」といった趣旨の発言に出会って、その頃の思いが一挙に蘇りました。

その後、1999年のトルコ・マルマラ地震が起こり、トルコ建築家協会の招きで主要4都市でのシンポジウムに参加し、神戸での震災の経験を話す機会がありました。専門家は、職能の枠を自ら破らなければ市民と連携して復興に関われないということを自分の体験を中心に話して、最後はいつも草地さんの言葉を紹介して締めくくりとしました。台湾もそうですが、復興という被災市民が自ら主体的に取り組まざるをえない課題を前にして、民主化の遅れはとても気になりました。

しかし、昨年、3年後のトルコと台湾の被災地を再訪することが出来て、トルコでは、連帯女性ボランティアなどによる女性自立プロジェクトが、いろんな形でスタートしていたのに目を見張ると共に、台湾では地方分権のバックグラウンドが無いのに、村の集落単位での村おこし運動が契機となり、地域コミュニティの形成に向けて動き出していることを知りました。逆

に、阪神の被災地で出来なかったことがコミュニティのレベルや個別団体のレベルで実現しているのを見て驚かされました。

我々は、国が違えば政治体制も異なり、復興の教訓を共有するのは難しいのではないかと考えがちですが、同じ人間であることは、驚くほど被災者同志の距離を近いものにしています。また協働（一緒に汗をかく）することがプロセスとして不可欠であることは言うまでもありません。最近、行政と市民或いはNPO/NGOとの協働が、いろんな場面で言われますが、役割分担や助成、委託といった、一緒に汗をかくことを前提としない協働の中身の無さを感じざるを得ません。被災地同志の連帯と協働をベースに復興期への支援に重点をおいたCODEの活動が、こうした相互理解と協働の大切さに多くの人々の目を開くことを期待しています。



## CODEに携わる人々

シリーズ「CODEに携わる人々」第3回目は、大阪YWCA専門学校国際関係開発学科在籍の酒井絵美衣さんです。

私が翻訳ボランティアを始めた契機は、学校のフィールドワークでCODEさんを訪問した際にお誘いを受けたことです。既に別のNGOで翻訳ボランティアをしていた私は興味津々で始めてみることに決めました。現在、国際関係開発について学んでいる私にとってNGOでの翻訳ボランティアとは興味のある分野の記事を訳しながら、同時に英語力の向上につながるものと考えています。翻訳ボランティアをさせて頂けることに感謝です。翻訳という作業はタイムリーな事象を「新聞で読む」「ニュースで聞く」という以上に自分自身に引きつけて感じることでできるものだと思います。

思い出せば、国際開発とは無縁の英文科に在籍していた大学時代に「途上国の教育開発」に携わるという目標を持った私が、最初に始めたことがNGOの翻訳ボランティアでした。現在は学生でありながらNGOのスタッフとして働く充実した毎日を過ごしております。将来NGOで働いてみたいけれども、どのようにすればよいのか悩んでいるという方にもオススメです。扉を叩くことで自身の世界が広がるなんて素晴らしいことだと思います。

## 翻訳ボランティアさん大募集！

現在、翻訳ボランティアとしてCODEの活動にご協力いただいている方は、今回ご紹介した酒井さんはじめ12名いらっしゃいます。翻訳ボランティアのみなさんには、UNOCHARIリーフウェブの災害情報を翻訳していただき、当センターHPの「World Voice」の「災害情報」の中にUPしております。ワールドボイスは国連人道問題調整事務所より出されていますリーフウェブを基とした世界の人道問題に関する記事の一部を翻訳したホームページです。

翻訳ボランティアにご興味がある方は、一度は事務局（担当：斉藤容子）までお気軽にお問い合わせください。

尚、ワールドボイスのホームページはこちらです

<<http://www.code-jp.org/wv>>

## 事務局より読者の皆さまへ

この度、12月1日にNPO法人化へ向けた諸手続が完了し、NPO法人として再スタートを切ることとなりました。正式名称は「CODE海外災害援助市民センター」となります。

事業内容については、従来通り現在展開中のアフガニスタン救援プロジェクトはじめ海外の災害救援を柱に、通常は、セミナー活動やホームページなどを使っての情報収集発信を行っていきます。組織体制については、従来通り変更はありませんが、下記の通りです。

今後ともよろしく願い申し上げます。

代表理事	芹田健太郎(神戸大学大学院国際協力研究科教授)
副代表理事	室崎益輝(神戸大学都市安全研究センター教授)
副代表理事	山口徹(神戸YMCA顧問)
理事	黒田裕子 (支援プログラム部長/阪神高齢者障害者支援ネット副代表)
理事	島田誠(アートサポートセンター神戸代表)
理事	西正興(ユーハイムコンフェクト相談役)
理事	野崎隆一 (ガイドライン部会長/神戸まちづくり研究所事務局長)
理事	秦正雄(市民参画部会長/コープこうべ常勤理事)
理事	榛木恵子 (人材育成部会長/関西NGO協議会事務局長)
理事	藤野達也(PHD協会総主事代行)
理事	松本誠(市民まちづくり研究所所長)
理事	村井雅清(被災地NGO協働センター代表)
理事	村上忠孝(財政部会長)
理事	吉富志津代(多言語センターFACL代表)
監事	中川和之(時事通信社メディア編集部)
監事	飛田雄一(神戸学生青年センター館長)

(文責：事務局 仲江川徹)

## これまでの活動記録11/1～11/30

- 11/ 4 NGOことはじめセミナー-第3回開催
- 11/ 7 国連防災会議地元連絡会会議出席
- 11/ 9 翻訳ボランティア研修会開催
- 11/11 アフガニスタン報告会開催(大阪エコーブ)  
レイボ-ハウスにて講演(村井理事)
- 11/15 INSARAG国際シボジ ム出席(芹田代表)
- 11/18 NGOことはじめセミナー-第4回開催
- 11/20 NPO法人認証式
- 11/21 アフガニスタンチャリティ-絨毯バザ-ル開催(~23日)

## ありがとうございます。11/1～11/30

## 会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

## 一般寄付

神戸ボランティアリーグッドウィルガイズ(兵庫県)

## 新規会員

- ・正会員  
個人:村井雅清(兵庫県)

## 賛助会員

個人:西田三恵子,光葉啓一,市丸仁一(以上兵庫県),加納敏一(滋賀県),大橋洋子(大阪府)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10

TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693

e-mail [info@code-jp.org](mailto:info@code-jp.org) URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替: 00930-0-330579

**【記念講演会】「国際的な人道援助のあり方」**

**【第1回「国際的な人道活動とCODE」】**

日 時：2004年1月31日(土)13:30～16:30

講演者：芹田健太郎(CODE代表理事)

**【第2回「災害医療とCODEの役割」】**

日 時：2004年2月21日(土)13:30～16:30

講演者：HuMA理事長 鵜飼卓さん

**【第3回「予防防災とCODEの役割」】**

日 時：2004年3月28日(日)13:30～16:30

講演者：室崎益輝(CODE副代表理事)

各回とも受講料は2,000円(会員及び学生は1,500円)

会場は、各回ともにJICA兵庫国際センターです。

詳しくは、事務局までお問い合わせ下さい。